

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0170100812		
法人名	株式会社 ゆずり葉宮の森		
事業所名	グループホーム ゆずり葉宮の森		
所在地	北海道札幌市中央区宮の森2条5丁目2番27号 (電話) 011-613-0080		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成22年3月20日	評価確定日	平成22年3月26日

【情報提供票より】(平成21年11月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年12月24日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	33人	常勤	24人, 非常勤 9人, 常勤換算 23.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋耐火構造 造り		
	3階建ての 1~3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000円	その他の経費(月額)	18,000~22,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(11月13日現在)

利用者人数	27名	男性	3名	女性	24名
要介護1	4名	要介護2	11名		
要介護3	2名	要介護4	5名		
要介護5	4名	要支援2	1名		
年齢	平均 83.5歳	最低	72歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人三草会 クラーク病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鉄筋耐火構造造りの3階建て3ユニットのグループホームで1階部分には、「宮の森なかよし児童育成会」が併設されて子供達との日常的な交流や同一敷地内の「宮の森保育園」の入園式や卒園式で利用者の挨拶、お誕生会や豆まき等園児や父兄との交流が行われています。また、地域的に地下鉄駅やバスターミナルがあり、マンション等の高層住宅が多く、地域住民とのかかわりが難しい点もあるが、宮の森保育園主催の「夏祭り」に参加して、地域の住民や家族、園児等との交流に取り組んでいます。一人ひとりの希望にそって絵手紙やカラオケ等の趣味への支援やオペラコンサートやオカリナ等ボランティアの協力を得た楽しみごとへの支援も行われています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、運営推進会議の定期的開催が課題として挙げられていましたが、概ね2ヶ月毎に開催され、緊急時の避難訓練実施状況等具体的内容について話し合われています。今後も継続的に実施されることを期待します。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 管理者及び職員は、評価を実施する意義を理解しており、自己評価は、リーダーが中心となって話し合われ新たな気付きや改善の機会として利用されています。また、外部評価の結果は、運営推進会議にも報告され、評価を活かした具体的な改善に取り組まれています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議の主な議題は 介護職員処遇改善交付金について キャリアパス制度の導入について 緊急時の避難誘導訓練実施状況について 行事予定及び結果報告について 介護サービス情報の公表制度について
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように玄関入り口に「苦情受付箱」を設置して、その機会を設けています。また、家族等の来訪時には、職員や管理者に要望や不安な点等伝えられるように、健康状態や日常生活の様子等話し合わせ、そこでの意見を運営に反映できるように努めています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 「児童育成会」が併設されて、日常的に子供達が訪問してきたり、実習生の受け入れやオカリナ等ボランティアとの交流、近隣公園で行われる夏祭りや運動会参加を通じて、園児や家族、地域との連携に努めています。また、地域の同業者と緊急時の協力体制について日ごろより連携した取組みができるように話し合われています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」のホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有し、全体会議やユニット会議を通じて、その実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「児童育成会」が併設されて、日常的に子供達が訪問してきたり、実習生の受け入れやオカリナ等ボランティアとの交流、夏祭りや運動会参加を通じて、園児や家族、地域との連携に努めている。また、地域の同業者と緊急時の協力体制について日ごろより連携した取り組みができるように話し合われている。		特筆すべき点として、日常的に保育園児や小学生の子供達との交流が多く作られている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は、評価を実施する意義を理解しており、自己評価は、リーダーが中心となって話し合われ新たな気付きや改善の機会として利用されている。また、外部評価の結果は、運営推進会議にも報告され、評価を活かした具体的な改善に取り組まれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、概ね2ヶ月毎に開催されている。委員は、利用者家族、町内会役員、包括支援センター、民生委員、保育園園長、保育園主任、ホーム長、管理者及び職員で構成され、避難訓練実施等具体的に話し合われている。		今後は、継続的に運営推進会議が開催され、地域とのかかわりを深め、緊急時等日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけていくことを期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者や包括支援センターとの連携の重要性については十分理解し、市主催の研修会や講習会参加等を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理は、金銭出納帳を毎月家族に送付して報告している。また、毎月「ゆずり葉 たより」を発行して、日常の生活の様子や行事開催の案内など情報提供が行われている。		今後は、家族等の来訪者に職員の写真やその日の勤務状況が分かる掲示等工夫されることを期待します。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように玄関入り口に「苦情受付箱」を設置して、その機会を設けている。また、家族等の来訪時には、職員や管理者に要望や不安な点等伝えられるように、健康状態や日常生活の様子等話し合われている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職率は低く、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、グループホーム協会、包括支援センター等の外部研修の参加や市主催の研修会参加で研修の機会を確保している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と緊急時の協力体制について日ごろより連携した取り組みができるように話し合われている。また、グループホーム協会や近隣の同業者との交流、ホーム主催の行事参加で、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、入居前には本人、家族等の見学で職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、食事の準備や後片付け、絵手紙や貼り絵、カラオケや歌唱等一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、散歩や買物、絵手紙やはり絵等本人本位に検討している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、利用者、家族の希望や医師からの助言、職員からの意見を取り入れ具体的な介護計画になっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとにカンファレンスを実施し、現状に即した介護計画の見直しが行われている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、散歩や買物、往診や通院等柔軟な支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>看護師が常勤し、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。また、利用者をよく知るかかりつけ医との連携で気軽に相談できる医師が確保されている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、職員間で共有されている。また、ターミナルケアが実践されている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した声かけや記録の扱いをしている。また、記録等の個人情報の扱いには配慮している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、散歩や買物、絵手紙や折り紙、料理の準備や洗濯物たたみ等その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、野菜の皮むきやもやしのひげとり等の料理の準備や盛り付け、配膳や後片付け、お茶いれやおやつ等の準備等職員と利用者が一緒になって行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、ゆっくりと入浴が楽しめるように週2~3回を目安に支援している。また、拒否の強い利用者にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式を利用して、一人ひとりの生活歴が把握され、絵手紙やお茶だし、洗濯物干し・たたみ、調理の準備等役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や買い物、保育園児や小学生との交流、夏祭りへの参加や野外での昼食等戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時に速やかに対応ができるように火災避難訓練や救急救命講習が定期的実施されている。また、地域の同業者と緊急時の協力体制について日ごろより連携した取り組みができるように話し合われている。		今後は、さらに緊急時に日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけていくことを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの具体的な食事や水分の摂取量、体重が把握されている。また、栄養バランスや摂取カロリーは管理栄養士の指導のもと把握され、献立表に記載されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の壁には、利用者の手作りの絵手紙の作品や写真が飾られていたり、観葉植物も随所に配置され季節感や生活感が感じられる。利用者にとって、気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真や観葉植物、箆笥や椅子、ソファ等使い慣れた家具などが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。